

# ヒヨコのわき道

ほら、君もこっちに いらっしやい



## 第10回 天使が降りた地に大きなワナが？ タールピットの物語

### 「ロサンゼルスでわき道へ」

アメリカのカリフォルニア州ロサンゼルス (Los Angeles) と言えば、観光地として有名ですよ。なんといってもハリウッドがありますから。でもこのコーナーは、「ヒヨコのわき道」ですから、王道のハリウッド映画や観光の話題はとり上げません。今回もひたひたと「わき道」にそれて行きます。

ロサンゼルスで昔から一番の産業と言えば実は石油産業で、近くに石油が採れるソルトレイク油田があるんです。その関係で、ここにはタールピットと呼ばれる、ちょっと変わった場所があります。特にロサンゼルス市内にある「ラ・ブレア・タールピット (La Brea Tar Pits)」は、とても有名な場所です。

### 「タールピットとは何？」

タールピットとはひとことで言うと、「アスファルトの池」です。ソルトレイク油田から地下の断層を伝わってきた石油が変質し、地層からドロドロのコールタールみたいな物が染み出して、100ヶ所もの深い池を作っているところなんです。タールは土地の低いところに集まっているわけで、普段その上には湧き水が溜まっていて、一見するとただの水場に見えるのです。

それを知らずに水を求めて足を踏み入るとさあ大変。最初は足の裏がベタベタと粘つく程度ですが、そのまま進むとタールの池で完全に足を取られます。そしてそこは、極めて粘り気の強い底無し沼。身動きが取れないまま、ゆっくりと、ゆっくりと、タールの池に沈んでいくと言うわけです。ああ恐ろしい。ラ・ブレア・タールピットは、何万年もの間、天然のワナとして多くの犠牲者を飲み込んできたわけです。

### 「タールに飲まれた犠牲者は？」

一旦タールに埋もれてしまうと、酸素が遮断され油漬けになるせいか、かつての犠牲者の様々な動物や、ヒトの骨など、ここからはとても良い状態で大量に発掘されています。時にはマンモス丸々一頭の全身骨格が出たというのだから驚きです。長年発掘を続けた結果、近所に専門の博物館が建ってしまう程の化石が見つかったのです。華奢な骨格を持つワシタカのような鳥類も保存が良く珍しいのですが、オオカミ、サーベルタイガーなど、肉食獣の数が多いのです。最も多いのがオオカミで、それに次ぐのがサーベルタイガー。他にオオナマケモノ、バイソン、ラクダ、ウマ等の草食獣も見つかっています。水を求めてやって来た草食動物が足を取られ、身動きできなくなっているところをオオカミなどが見つけ、しめしめと近づいたところを同じワナにかかったというわけでしょう。ただし、最も多く見つかるオオカミの場合、若い固体の割合が多いそうで、経験の深い年長のオオカミは、ここがワナだと知っていて、容易には近付かなかったのかも知れません。それでも、目の前にある獲物の誘惑に勝てなかった肉食獣は多かったようです。

### 「タールピットから分かること」

タールの層を注意深く調べると、色々なことが分かります。

例えば、沢山発掘されたバイソンの顎の化石を整理して調べてみると、歯の様子からだいたいの年齢が推測できるのですが、1歳、2歳、3歳と、切りのいい年齢のものだけが見つかり、1歳半とか、2歳半の化石は見つかりません。これはどういうことでしょうか？ バイソンは一年のうちのある時期だけここに来て、他の時期にはいなかった事になります。これはバイソンの群れが季節によって大移動していたことを示しています。食料の新しい草を求めて、ある季節になるとこの場所にやって来たのでしょう。

更に、タールの中に閉じ込められているのは動物だけではなくありません。植物の花粉も見つけられるのです。4万年前～数千年前までのこのあたりに、どんな植物があったかも分かるというわけです。その上、どんな季節に咲く花の花粉かも分かります。植物の種類が詳しく分かれば、現在のどんな気候にあたるのか、バイソンがこの地に来たのがどの季節なのか、推測することも可能になります。

### 「不思議な骨盤化石」

ここから発見される化石は、肉食獣のものが多いと書きましたが、獲物と格闘した結果なのか、骨に傷を負ったものも見つかります。怪我をしてすぐにタールピットで死んだのなら、ヒトが骨に怪我をして病院へ行き、撮影したレントゲン写真のように、亀裂が入っているか、綺麗に折れているだけでしょう。しかしタールピットでは、バイソンかラクダにでも蹴られたのか、ひたいに傷を負った後も生きていたために、頭の骨が腫れ上がっているものも見つかります。

また、特に奇妙なのが、あるサーベルタイガーの骨盤化石（腰の骨）で、骨折した後に大きく腫れ上がって歪んでいます。とてもまともに歩けない重傷を追った後に、1ヶ月以上生きていたことになるのです。

今のトラのように単独生活をしていたら、たちまち周囲のオオカミに襲われるか、飢え死にです。これは奇妙なことなのです。

詳しく検討した結果、これはサーベルタイガーが集団生活をしていたからだと推測されています。彼らはひどく傷ついた仲間を見捨てず、守ろうとしたのでしょう。

### 「タールピットを調べる意味とは？」

結局、タールピットの化石標本が増えれば増えるほど、当時の環境、動植物の種類や行動が詳しく分かるようになり、単に「一体の立派な骨格が見つかった」というだけではなく、古代の生態系そのものを復元することが可能になります。

それは確かに豊かな古代世界の様子です。しかし、特にここにいた肉食獣達については、自然が仕掛けた恐ろしいワナの上で、持てる限りの知恵を使い、獲物の反撃で大怪我をする危険を乗り越え、時には仲間の力を合わせて戦ったことが分かります。

美しい生態復元図の向こう側に、彼らの生き抜くための物語まで垣間見えるようです。

現在のオオカミ達が狩りをする前などに、仲間同士で遠吠えをするのは良く知られています。タールピットの物語を知ると、危険に挑まなければ生きていけない彼ら肉食獣達の気持ちや、人間ではない彼らの心が、遠吠えの響きから伝わって来るような気がします。